

第6回 ダムにおける入札契約方式検討委員会 議事要旨

平成16年9月29日(水) 10:00 ~ 12:00 ダム技術センター 特別会議室

参加者：小澤委員長、大森委員、草柳委員、豊田委員、埜本委員、水野委員

要旨

1. ダムの入札契約制度における現状の課題と対応方針

前回委員会での指摘事項を踏まえ以下の修正を行う。

受注者のインセンティブ(建設段階)

- ・設計段階における「工期短縮」の扱いについては、調査を行ったうえで、再度検討する。

2. 各対応案について、以下の意見があった。

発注者のインセンティブ

- ・発注者のインセンティブとして、「組織」としてコスト縮減に関する透明性を高め、国民の理解を得ることも含める。
- ・目標については、コスト縮減金額だけでなく、達成のための具体的な手法も明記する。

発注者のスタンス

- ・発注者と受注者では、標準案に対するスタンスが異なるため、発注者の案を「標準」として民間企業の技術力活用によりさらなる改良を期待する、という考え方を明記する。

リスク分担

- ・従前は、設計は発注者の責任と捉えていたが、設計段階で民間企業の技術力を活用することに伴うリスク分担であることを明記する。

検証

- ・検証にあたって、コスト縮減効果を評価する際の基準となる考え方を整理する。

受注者のインセンティブ

- ・「設計・施工一括発注方式」について、ダムの特殊性も踏まえ、提案を求める設計範囲等、具体的な考え方を整理するとともに、実現場への適用にあたっての課題を検討する。